

全国 保健所長会 だより

初めてのオンライン開催

「公衆衛生若手医師・医学生サマーセミナー(PHSS)2020オンライン」を令和2年8月22日(土)に開催しました。PHSSは地域保健総合推進事業(全国保健所長会協力事業)「公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業」班が平成24年度から開催しているセミナーで、9回目となる今年度は初めてZoomを用いたオンライン開催とし、公衆衛生分野に関心がある医師、医学生のほか、行政に入職後5年以内の医師等63名が参加しました。

PHSSの目標は、①臨床医や医学生等における公衆衛生への関心を深めること ②入職して間もない公衆衛生医師に保健所等で勤務する魅力、やりがいを感じて

公衆衛生若手医師・医学生向け サマーセミナー(PHSS) 2020オンライン報告

PHSS2020オンライン運営委員長／栃木県東西健康福祉センター所長補佐(兼健康対策課長) 早川 貴裕

もらうとともに仲間づくりの機会を提供すること等によって、公衆衛生医師の確保と育成を同時に図ること—にあります。当事業班のメンバーが講義、ケースメソッド、意見交換等を行い、保健所等で勤務する公衆衛生医師の実際の活動やキャリアパス等に関する理解を広めることに取り組んできました。今年度はオンライン開催としたことから、講義中心の内容とし、Zoomのチャット機能等を使いながら質問を募り、スタッフ、参加者の双方で意見交換をする形式にしました。

講義だけでなく 保健所医師の業務や 生の声もご紹介

今年度のプログラムを表に示します。開会挨拶に続き、北海道渡島保健所(兼)八雲保健所の山本長

に際して、行政と医療両方の知識、経験を持つ公衆衛生医師は、府庁内のさまざまな部署から医師としての意見を求められるというお話を伺い、行政組織に公衆衛生医師が存在する意義や価値を改めて認識することができました。

参加者からは、保健所の感染症対策における所長と所長以外の公衆衛生医師の役割・業務の違い、公衆衛生医師と他の医療専門職との役割分担や連携の状況、実際の

(敬称略)

表 PHSS2020オンラインプログラム

日時：令和2年8月22日(土) 13:00-16:00

Time Schedule	Contents
13:00-13:10	オープニング 主催者挨拶 日本公衆衛生協会 理事長 松谷 有希雄 全国保健所長会 会長 内田 勝彦
13:10-13:40	講義① 「公衆衛生医師の役割とキャリアパス」 講師：北海道渡島保健所(兼)八雲保健所 山本 長史 公衆衛生医師の役割とキャリアパスに関する意見交換 司会：長崎県東保健所 宗 陽子
13:40-14:10	
14:10-14:20	案内① 公衆衛生医師合同相談会オンライン2020について 担当：香川県小豆保健所 横山 勝教
14:20-15:10	講義② 「新型コロナウイルス感染症対策と保健所医師」 講師：東京都大田区保健所 高橋 千香 大阪府健康医療部 宮園 将哉 新型コロナウイルス感染症対策と保健所医師に関する意見交換 司会：枚方市保健所 白井 千香
15:10-15:40	
15:40-15:50	案内② 日本公衆衛生学会学術総会自由集会 「公衆衛生医師の集いオンライン2020」について 担当：高松市保健所 藤川 愛
15:50-16:00	まとめ 公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業班 分担事業者 群馬県利根沼田保健所(兼)吾妻保健所 武智 浩之

勤務の様子、患者情報の公表と個人情報保護のバランスの在り方等さまざまな質問が寄せられ、神奈川県立保健福祉大学の吉田穂波先生のサポートの下、事業班メンバーが口頭もしくはチャットで一つつ丁寧回答しました。

公衆衛生医師の 更なる確保に向けて

PHSSの特徴の一つに、普段は接することのない公衆衛生医師の生の声を聴くことができる絶好の機会であるということが挙げられますが、例年は2日間の日程でプログラムを組むことで、直接お話しする時間をできるだけ確保するように努めてきました。今回は、

史所長が「公衆衛生医師の役割とキャリアパス」について講義を行いました。北海道庁を例に行政組織における公衆衛生医師の配置や業務内容、キャリアパス、社会学系専門医制度の取り組み等について説明いただき、公衆衛生医師全般について知るきっかけになったことと思います。また、意見交換の中で、地域医療振興協会シニアアドバイザーの宇田英典先生から「保健所は地域の人々の健康や生活を衛(まも)る社会基盤であり、その組織を動かす公衆衛生医師の役割は重要で重い」という発言をいただきました。公衆衛生医師として長年活躍してきた経験に裏打ちされたお話しに、多くの参加者、事業班メンバーが感銘を覚えたのではないかと思います。

続いての講義は「新型コロナウイルス感染症対策と保健所医師」

オンラインによる運営が初めてであること、また、オンラインで集中して視聴できる時間には限りがあることなどから、PHSS2020オンラインに従来の内容をすべて盛り込むのではなく、別日に合同相談会2020オンライン(9月5日(土))を新たに開催することとしました。講義中心のPHSS2020オンラインは「公衆衛生医師について広く知る機会」と位置付け、具体的かつ個別の質問や就職に関する相談等については合同相談会2020オンラインにおいて細やかに対応していくことで、参加者のニーズに応えるイベントとすることを心掛けました。

今年度は合わせて78名の申し込みがあり、その内訳の割合は医学生…臨床医…公衆衛生医師…5…3…2でした。これまでに比べると、①医学生が多く、また、②海外も含めより国内の広い地域から申し込みいただけただけに、オンラインという手法を用いた開催の結果が見て取れると考えます。また、参加した公衆衛生医師から「他地域の公衆衛生医師の様子や業務内容が分かり、今後の業務の参考になった」「自分も頑張ろうと思えた」

といった声が聞かれ、モチベーションの維持や高揚に確実につながっていました。

一方で、受講後のアンケートに、「参加者同士の交流の機会が持てるとよかった」という意見が複数出されました。公衆衛生への興味・関心を持つ者同士が自由に意見交換し、関係づくりをできることがPHSSの最大の魅力でもあるので、グループレディスカッションやフリートークの時間を設けるといった配慮も次年度以降検討したいと思っています。

オンライン開催を試みたことで、集合形式の利点を改めて確認することができました。来年度以降の開催に当たっては、集合形式とオンライン形式両方の長所をうまく組み合わせることで、より多くの医学生、臨床医等に公衆衛生への興味、関心を持ってもらい、公衆衛生医師の確保・育成に確実につながるよう取り組みたいと思います。

最後に、運営にご協力いただいた事業班メンバーおよび日本公衆衛生協会の松谷有希雄理事長他事務局の皆さまに深くお礼申し上げます。※講義の資料と動画の一部を公開していますので、興味のある方はぜひご覧ください。
http://www.phcd.jp/02_i_seminar/html/JN_PHSS_2020.html